

矢作川流域圏懇談会通信

R5 流域連携 vol. 1



発行日：令和 5 年 7 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆流域圏担い手づくり事例集交流会 2023 を開催しました！

矢作川流域では、上流域や下流域の自治体で過疎化と少子高齢化が進んでいます。その解決の糸口として、矢作川流域圏懇談会では、山部会を中心に 2013 年度から矢作川流域で主として中山間地振興に携わる団体や、川や海の環境保全や水辺空間の再生・利活用に携わる団体の取材記録をまとめ、流域内の多様な主体によるネットワークづくりを支援する「山村再生担い手づくり事例集」「流域圏担い手づくり事例集」として計 7 冊発行いたしました。

2022 年度は、通算 8 冊目にあたる「流域圏担い手づくり事例集Ⅳ」の発行を行い、これらの事例集づくりでできた人のつながりを深め、広めることをめざして、この交流会を開催しました。

日時：R5 年 5 月 19 日（金） 14:00～17:15

場所：つくラッセル 体育館

参加人数：33 名（事務局を含む、内オンライン参加 4 名）



◆交流会の活動報告

学童保育木造化プロジェクト



■地域の森から学童保育所を木造化 街に森を創るプロジェクト 鈴木建一さん（森と子ども未来会議 代表）

学童保育施設は全国的にプレハブが多く、名古屋市も多くがプレハブで、冷暖房が効きにくい、音が漏れやすいなど、学童にとって望ましくない環境にあるという話を名古屋市の方から聞きました。板倉建築は住み心地が良く、地震や火事に強く、移設も簡単であるため、学童に通う子供たちの課題をクリアできると 7 年ほど前からプロジェクトを始めました。施設の木造化により、子供の笑顔が増えた、室内での過ごし方が増えたと高評価で、今年中に 10 棟目の板倉式木造学童施設が着工されます。また、地元の方からも木の良においがすると好評で、日曜や午前に使わせて欲しいとの要望もあり、防音性の高さから老人会が子供達と太鼓の練習をしたりと、地域住民と子供達との交流も広がっています。

■学童保育施設の木造化の取り組み

東海林修さん（東海林建築設計事務所）

1995 年の阪神大震災を契機に、板倉構法に関わりました。板倉構法は 3cm の厚さの板をつないだものを梁の間に上から落とし込んでいく構法で、登呂遺跡、伊勢神宮等の歴史的建築物にも使われています。筋交いで耐震性を上げる一般工法と比べ倒壊しにくく、30 分の防火性能がある上に、調湿性が高く子供達に最適な環境が保たれます。木造施設に変わり、床で寝転ぶ子供が増えた、声が無駄に響かなくなった等の声を指導員さんから聞きます。建築された施設を見て里山の生産者が町とのつながりを実感することが出来るという効果もあり、今後は里山と町の消費者を繋ぐ楽しい関わりを作る活動をしたいと考えています。

■「木の家プロジェクト」について

小嶋哲志さん（あおぞら学童保育クラブ）

学童は長期休暇を含めると、学校より長い時間を子供たちが過ごす場所ですが、木造化される前はプレハブの狭い空間で子供たちがすし詰め状態で過ごしていました。施設が移転し木造化されたことで、音、温度、湿度等の環境が整い、静かに過ごしたい子、活発に動きたい子等、色々な子が一緒に過ごしやすくなりました。木材の加工のしやすさから保護者・OBなどと図書館の棚などを作ったり、地域の方を交えてのワークショップなども行っています。建物が変わり、近隣の方々に関わってもらうことで、様々な方が集まる場所となり、地域コミュニティとしての保育所という様に役割も変わってきています。





■都市の木質化を中心とした錦二丁目のまちづくり

名畑恵さん（錦二丁目エリアマネジメント株式会社）

錦二丁目は名古屋駅と栄の間にあるエリアで、繊維問屋街として栄えましたが、バブル崩壊の不況により空きビルが増え、人通りも少なくなっていました。2004年にまちづくり（賑わい）事業として学びの場や構想づくりがスタートし、みんなでまちのビジョンを考え、みんなで実現に係ることが大切という考えで事業を進める中、まち全体が木で覆われているような「まちの美しさ：都市の木質化」を構想の大切な柱としました。はじめは地縁者が端材などを再利用して歩道にベンチを設置したりと、住民の努力によるものでしたが、現在は「暮らしの歳時記のように、木質化プロジェクトをリズムのように続けていく」ため、公共広告の運営等による収益でプロジェクトを継続する仕組みを作っています。その結果、現在は多くの家族連れの方に親しまれています。



■錦二丁目での取り組み－都市の木質化プロジェクト－

大橋俊夫さん（再生空間合同会社）

山を健康的に維持していくには山の手入れが必要ですが、そのためには木材の消費が必要となります。ただ山の中だけでの消費では難しいので都市部での木材の消費を喚起しようというプロジェクトに参加したのが始まりで、その中で錦二丁目のまちづくりの方々と関わりました。まちづくりに参加されている企業オフィスに木造で休憩スペースを作ったのですが撤去されることになり、そのままでは処分となってしまうところを、木材もきれいでいたので自分達で再利用し、錦二丁目の喫茶店やレンタルスペースの棚や小さな机を作りました。木材はリユースしやすい素材だと改めて感じました。2014年に長者町通りに木製ウッドテラスを作り歩行環境を改善する社会実験を半年行い、実験終了後の2015年にはその木材は万博公園で行われた緑化フェアで角材デッキとベンチとして再利用されました。その後、錦二丁目に二代目ウッドデッキを設置する際にも緑化フェアの材をさらに再利用しています。



■都市の木質化に関わって考え方が変わったこと

山田政和さん（豊田森林組合）

名古屋大学の先生方と錦二丁目街づくり協議会の大橋さんから都市の木質化プロジェクトに誘われ、2013あいちトリエンナーレで長者町のビジターセンターを豊田の木で内装したのが最初です。その後も、2016あいちトリエンナーレで竹が欲しいという作家さんと一緒に竹を使った作品を作ったり、長者町の木製ウッドテラスやウッドデッキの製作、新豊田市駅の東口駅前広場への木造遊具の設置、地元幼稚園へ木材で作成したおもちゃを提供しました。最近では乾燥していない生木を使いスプーン、イス等をつくるグリーンクラフトという活動も行っています。都市木等の活動をすることで、異業種との関わりが増え、自身の技術や視野の幅が広がりました。この経験を活かし、今後皆さんのお役に立てる活動をしていきたいと思っています。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、建設専門官 宮本、技官 松田
TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、豊橋河川事務所までお送りください。

